

## 基本情報

- 位置  
カリマンタン島東部、北・南・中・西カリマンタン各州に囲まれ、一部マレーシアと接する。
- 面積 約13万km<sup>2</sup>（全国の約6.7%、北海道の約1.5倍）
- 州都 サマリダ
- 地方自治体  
3市（サマリダ市、バリクパパン市、ボンタン市）  
7県（ベラウ県、クタイ・カルタヌガラ県、西クタイ県、東クタイ県、マハカム・ウル県、パセル県、北プナジャム・パセル県）
- 人口 357万人（2018年推定値）  
（出典：2015年SUPAS（中間人口調査）報告書）
- 民族  
ジャワ(29.6%) ブギス(18.3%) バンジャル(13.9%)  
ダヤック(9.91%) クタイ(9.21%) など
- 宗教 イスラム教:86.9% プロテスタント:7.9% カトリック:4.5% 仏教:0.3% ヒンドゥー教:0.2%



## 歴史

- 14世紀の東カリマンタンにはクタイ王国、ブラウ王国等が存在。18世紀以後マカッサル海峡航路に勢力をふるったブギス人（スラウェシ島出身）が貿易拠点の一つとしてサマリダを開発。
- バリクパパンは19世紀末に地下油田の開発が進められ、今日では石油、天然ガスの供給基地。
- インドネシア独立戦争の時期は、オランダが設立した「東インドネシア国」に組み込まれていたが、1950年に同国の消滅を受け、カリマンタン地域全域が「カリマンタン州」となった。
- 1956年、「カリマンタン州」が、東カリマンタン、南カリマンタン、西カリマンタンに3分割され、サマリダが東カリマンタン州の州都と制定された。
- 2013年4月、北部の1市4県の地域が北カリマンタン州として分離された。
- 2019年8月、ジョコ・ウィドド大統領は、東カリマンタン州北プナジャム・パセル県の一部とクタイ・カルタヌガラ県の一部の地域を首都移転先とする計画を発表。2024年の移転開始を目指すもの。



- 設立記念日 1956年12月7日
- 州の紋章には、石油、木材等の資源、古来からの木の盾や槍等が象徴として描かれている。

## 行政・政治

- 行政府  
州知事 イスラン・ヌール 元東クタイ県知事  
副知事 ハディ・ムルヤディ 前福祉正義党(PKS)国会議員

2018年6月、グリンドラ・PKS・PANの擁立で当選。  
現在1期目(2018-2023)。

- 治安当局  
・東カリマンタン州警察本部  
(州都のサマリダ市ではなく、商都バリクパパンに所在。)  
州警察本部長:ヘリー・ルドルフ・ナハク警察少将  
・陸軍第六軍管区司令部(KODAM VI・ムラワルマン師団)  
(東・北・南カリマンタン所掌。バリクパパンに所在。)  
軍管区司令官:ヘリ・ウィラント陸軍少将

- 州議会 (2019-24)  
(全55議席)

政党名	議席数
ゴルカル党	12
闘争民主党(PDIP)	11
グリンドラ	8
国民信託党(PAN)	5
民族覚醒党(PKB)	5
福祉正義党(PKS)	4
開発連合党(PPP)	4
民主党(PD)	3
ナスデム党	2
ハヌラ党	1

## 経済概況

- 主要産品  
石炭・石油・天然ガス
- 州内名目GDP(2019年)  
653.68兆ルピア
- 一人当たり名目GDP(2019年暫定値)※  
176百万ルピア  
(ジャカルタに次いで全国2位)
- 経済成長率  
2013年: 2.30%  
2014年: 2.05%  
2015年: 0.95%  
2016年: 0.54%  
2017年: 3.13%  
2018年: 2.67%  
2019年: 4.77%
- 主な観光地  
ダイビング・スポット(デラワン島、マラトゥア島、カカバン島)  
オランウータン保護施設(サンボジャ) 等
- 州内GDP内訳(地域別、2019年)  
1. クタイ・カルタヌガラ県: 24.89%  
2. 東クタイ県: 20.46%  
3. バリクパパン市: 15.66%  
4. サマリダ市: 10.48%  
5. ポンタン市: 8.9%
- 州内GDP内訳(業種別、2019年)  
1. 鉱業: 45.49%  
2. 加工業: 17.77%  
3. 建設業: 9.08%  
4. 農林水産業: 7.92%  
5. 自動車販売: 5.92%
- 輸出額(2019年, 100万米ドル)  
・石油ガス以外  
1. 中国: 3,901  
2. インド: 3,241  
3. 日本: 1,226  
4. マレーシア: 993  
・石油ガス  
1. 日本: 1,154  
2. 中国: 415  
3. シンガポール: 81

(州統計局資料より。※のみ中央統計局資料)

## 日本との関係

### 概況

- 東カリマンタン・インドネシア元日本留学生協会(プルサダ) 会員65人(2020年4月)。国立ムラワルマン大学の関係者多数(現会長含む)。
- 東カリマンタン州内の日本語学習者数 約4,500名。州内13校の高校で日本語学習授業が実施されている。(2019年1月時点)
- 1942年1月、日本軍がバリクパパンに侵攻。太平洋戦争末期、タラカンとバリクパパンは激戦地となり、バリクパパンからサマリダに通じる街道は「死のサマリダ街道」として、退却する日本軍の多くが飢えと病に倒れた(死者約1万人)と言われている。バリクパパンとサマリダ周辺を中心に以下の慰霊碑がある。また、バリクパパン市に、第二次世界大戦中に日本海軍が使用した大砲が展示されている(Museum Mariam Jepang)。
  1. バリクパパン郊外ラマル海岸「南方方面戦没者慰霊碑」
  2. バリクパパン郊外カランジュアン(サマリダ街道13km)「平和と友好の碑」
  3. サマリダ郊外ロアバク「日本人戦没者慰霊の碑」
  4. サマリダ郊外ロアブア「日本人戦没者慰霊碑」
  5. サマリダ街道58km「戦没者慰霊碑跡」
  6. クタイ県フシン村「日本人戦没者の碑」



### 主な経済協力案件

- 無償資金協力  
1979,1986 熱帯降雨林造林研究センター(ムラワルマン大学)  
1988 東カリマンタン造林機材整備計画  
2000 森林火災対策機材整備計画  
2007 遠隔地ラジオ放送網拡張計画
- 技術協力  
1983,1990,1994 熱帯降雨林研究計画  
1990 高等教育開発計画  
2003 郷土樹種造林技術普及計画
- その他  
2013~2016 バリクパパン市における泥炭・森林火災の消火技術普及モデル事業(北九州市)  
2017~ 中学教科「環境」の確立と環境教育の普及支援プロジェクト(於:バリクパパン)
- 有償資金協力  
1970,1972 バリクパパン~サマリダ道路  
1973 液化天然ガス開発  
1978,1984 僻地ディーゼル発電  
1979 地方ディーゼル発電所及び配電網  
1979,1987,1996 地方道路整備事業  
1985,1991 バリクパパン空港拡張  
1988,1989,1993 道路網改修  
1990 地方及び都市道路改良事業  
1995 ムラワルマン大学整備拡充事業  
2000 水資源開発